

2019年1月30日ウェブセミナー「内部監査部門のデジタルイノベーション～内部監査の高度化・継続的監査構築へ向けて」ご質問とプロティビティの回答

No.	頂いたご質問	Protiviti回答
1	エクセルが高機能となり大量データにも対応できるようになった現在、あえて利用者が少ないACLを利用するメリットはなんでしょうか。	エクセルの仕様上のデータ制限は100万レコードほどですが、実質的には10万件程度でもVlookup等の関数を多用すると相当時間がかかったり、落ちてしまったりするかと思います。ACLは数百万、数千万レコードの処理を確実に行うことができるため、1年分の仕訳データや勤怠データをチェックする、他のデータと突き合わせるなどが容易に可能です。また、VBAに比べてはるかに簡単に複雑なデータ処理をプログラミング可能です。また、ACLは操作ログからプログラム(スクリプト)が作成できるのでエクセルでプログラムを作成するより容易といわれています。そこから、閾値の変更などのプログラムの修正、あるいは部として担当者の異動などのリスクにも対応できると思います。
2	現在、基幹システムから抽出した各種データ(csv)をAccessに取り込んでDBを作成し、SQLで各種条件に見合ったデータを抽出している。これとACLの違いはどんなことがあるでしょうか。	ACLはSQLよりもきめ細かいデータ処理をずっと簡単な(短い)プログラムで作成できると考えております。より多くの担当者が、より短時間でデータの処理・分析を行うことができるため、データ処理よりもその後の考察、さらなる試行錯誤等に時間を割くことが可能となりますし、部として担当者の異動などのリスクにも対応できるかと思います。
3	データ分析ツールとして、ACLの紹介がありました。ACLは会計データからシナリオですが、昨今、非財務データの重要性も叫ばれていると思います。ACLでは難しいですが、財務データと非財務データを組み合わせて分析していくアプローチ(予測)が今後期待されていくのでしょうか? 例えば、財務データと従業員調査データとの関連。人間の力では難しく、AI(人口知能)等のテクノロジーの力を借りることになると予想しています。	監査法人などは、ACLをおもに会計データの分析に活用していますが、内部監査では、財務データ(交際費など)と従業員意識調査データの突き合わせなど、非財務データの分析にACLを利用した実績は多数ございます。具体的な方法はどのようなリスクを想定するかにもよりますが、現状のデータ・手法で可能なことをまず徹底的に推進し、併せてAIなどのような先端ツール(少し先の将来)の適用領域を検討されていくことを推奨しております。
4	33%が前向きと判断してよいのか。67%は実施していない現実を重視することが必要では?	約33%が第4世代の取り組みに入っているということでした。約50%は第3世代、約10%が第2世代ということで、おっしゃる通り大多数は第4世代の前の段階ということですね。テクノロジーの劇的進化や経営陣からの要請等を考慮して、次のステップに上がっていくことが重要だと思っています。
5	本日の参加者は何名、若しくは何社程度ですか。	参加者は154名となっております。
6	ACTIVE DATAは活用しているが、ACLは活用していません。ACL、ACTIVE DATA、EXCELの3つではどれ位難易度が異なり、分析効果が異なるのでしょうか?	機能の豊富さ・難易度はおおよそ以下と考えます。 Active Data < ACL < Excel(マクロ) Excelは汎用的な表計算ソフトであるため、個別の機能(関数・グラフ化を含む)は非常に豊富ですが、大量データの扱いが得意ではないと思われます(仕様は100万件程度だが実務的には数万件程度が限界と思われます)。社内の様々なデータを扱って有用な監査・モニタリング結果を生み出すためにはACLのような専用ソフトが有効です。

No.	頂いたご質問	Protiviti回答
7	監査ツールと一般的なデータ分析ツール(タブロー、マイクロストラテジー等)の違いを教えてください。(機能としては同じものである気がします)	大量データの処理、プログラミングの簡単さなどでACLのような監査・モニタリング向けのデータ分析ツールが適しています。タブロー等のBI的なツールは視覚化と言う点で優れています。機能の異同や多寡については様々な解釈があり得ると思いますが、使い勝手・ツールの得手不得手という面ではそれぞれ明確な特徴があるため、使い分けられることを推奨いたします。
8	ACLGRCと一般的なデータ共有ソフトやプロジェクト管理ソフトの違いを教えてください。	Webinarの内容と一部重なりますが、ACL GRCが他のソフトと異なる点としては、ACLでのデータ分析結果との連携が可能である点や、ある程度パッケージ化されているため、導入が短期で可能であること、アプリがあるので、監査を効率化できる点等があります。より詳細をご希望であれば、別途ご案内させていただきます。
9	小職のお客様は海外拠点の関連子会社に対して システムのフォーマット ローカルルール リテラシーの違いによるデータの品質の標準化が難しく困っています。	システムのフォーマットは、いわゆるシステムがバラバラ(会社によって別システム)の状況と理解しました。弊社ではそのようなお客様でもACLのプログラムの作り方で対応しております。システムをそろえるのではなく、システムから抽出したデータをACL側でそろえてから分析していくイメージです。ローカルルール、リテラシーは、同一システムの拠点であったとしても各社各部署でのシステムの運用方法が異なると理解しました。運用方法の影響が少ない領域を対象に着手する、会社ごとに閾値を変更できるようにACLプログラムを工夫するなどに対応できる部分も多いかと思われます。
10	実地監査におけるipadの活用方法として、会社例規、関連法律、関連書類を現地でipadで確認する以外であれば、ご教示下さい。	実地監査におけるi-padの活用として、アプリを入手すれば、監査手続きに対する監査結果を音声もしくは文字入力で登録することや、入手した証憑(写真や動画含む)を監査手続きに紐づけて保存すること等が可能です。アプリでは画面もシンプルになっており、サクサクと手続きをすすめることも可能です。
11	ACLの導入費用も教えてください。	担当者から別途ご連絡させていただきます。